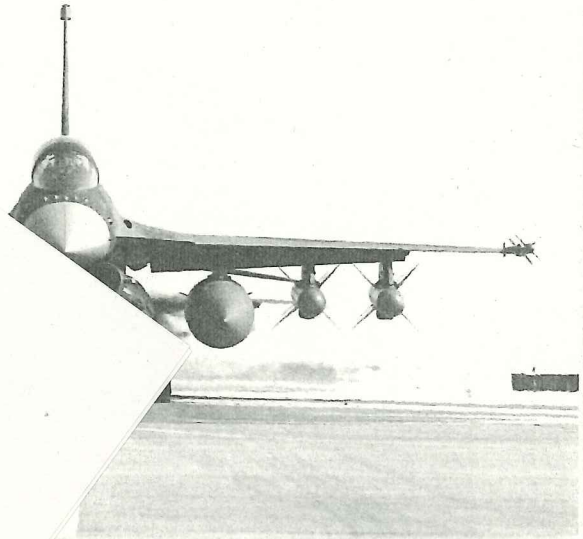
アビオニクスの高性能化で搭載ウェポンは増大
国産機の強み、主体的な改修・性能向上
マルチロールファイター“F-2”の進化

F-2の能力向上は主要なアビオニクスを[illegible]たといえる（航空自衛隊）



[illegible]等の点で性能向上の余地は少ないと言われ[illegible]を活かして、最近ではアビオニクスの高性能[illegible]いる。2000年度の開発完了から今日に至るま[illegible]力向上の可能性を解説する。

[illegible]発実験団司令／空将補〉宮脇　俊幸

[illegible]発着[illegible]中心に研究[illegible]国産による実現[illegible]ション・コンピュータ[illegible]ダー、電子戦装置、通信[illegible]らの情報に基づき、各システム[illegible]を図り、搭載ウェポンの射撃管制計算[illegible]ともに、コックピット内の表示装置に必要[illegible]

[illegible]撃[illegible]フレビ[illegible]ました。[illegible]プ誘導方式

航空自衛隊のF-2戦闘機の開発着手は一九八八（昭和六三）年度。量産初号機の納入は二〇〇〇年度で、二〇〇三年度から第3航空団（三沢基地）で対領空侵犯措置任務に就きました。今年度は、F-2開発着手から二五年、任務開始から一〇年の節目になります。

F-2の運用が続く中、「F-15は近代化改修で性能向上が図られているのに対し、F-2は機体が小さく性能向上の余地が少ないのではないか」という意見を耳にすることがあります。F-16を母体とするF-2は、F-15と比べて機体規模が小さく、新しいアビオニクス・システムを搭載する際に機内のスペースに制約があることは確かです。しかし、ライセンス国産機を改修する場合は、当然とはいえ、新しいアビオニクス・システムの開示時期に制約があり、部品取得が米国企業の都合により左右される面などもあります。

[illegible]4発搭載するという世界に類を見ないものだ（航空自衛隊）

これに対して、国産機であるF-2の改修は[illegible]衛隊により主体的に計画・実施されてき[illegible]数年F-2の進化に向けての動き[illegible]的には、電子技術の進歩によ[illegible]・小型化が図られ、新[illegible]れています。将来[illegible]きます。[illegible]手の最

軍事研究
JAPAN MILITARY REVIEW
2013 10
第48巻第10号　平成25年10月1日発行（月1回1日発行）　昭和41年5月2日第3種郵便物認可

空自F-2戦闘機のパワーアップ計画

新連載カラー図説：アメリカの「対中国戦争」The Newtype DDH IZUMO Launched on 6th August

『弾道ミサイルの集中攻撃！オキナワ嘉手納基地』

緊急レポート「中国海南島に空母基地

隠しきれない陸上自衛隊最大の

北朝鮮の最新戦車「暴風号」